

前川文夫*：中国娥眉山のカンアオイ属の新種

Fumio MAEKAWA*：A new *Heterotropa* from Mt. Omei, China

(Pl. XIV)

本年3月に原寛君から中国のカンアオイの花が咲いたから見てくれないかとの勧誘を受けた。早速拝見に及んだところ、その素晴らしさに驚いた。大きな花の上に、花の中央に白く浮き出したフェルト状の隆起 (spongy cushion といっているもの) が盛り上がり、がく片の紫色の拡がりとは対応して実に美しく、しばらくみとれていた位である。その後その分類的位置について検討したところ、近縁と思うものがあったが、それらとは異なる事が判ったので新種として発表することにした。終りに材料を提供された原寛君の好意に謝意を表す。

Heterotropa splendens F. Maekawa, sp. nov.

Flos ad basin petiolo juvenile unicus, breviter pedunculatus magnus 50-55 mm longus et latus, lobis patentissimis ovato-deltaoideis margine undulatis planiusculis 23-25 mm longis 30-32 mm latis sordide purpureis glabris, centrale circum pore albo-punctate scabrissime rugulosus ca 5-5.5 mm circinatus, araeo ca 17 mm in diametro, subtus araeo anguste annulo-cinctus. Tubus leviter obovato-cylindricus basi ca 17 mm latus ad superiore sensim major et ad maximo 25 mm latus, apice parum distincte contractus, intus leviter reticulato-costatus, costis longitudinalibus ca 21-30, basi saepe inter se confluentibus, centrale hexagono-angulato-stylosus. Petala rudimentalia 3 filiformia. Stamina oblongo-filiformia longiter filamentosa apice breviter producta. Carpella aperta 9 mm longa apice appendice leviter bifida, lobis non apertis. Stigma externe styli existente.

Planta mediocres. Rhizoma breve. Folia petiolata, petiolis mediocris purpureis carnosis glabris; lamina triangulari-ovata apice acutiuscula basi profunde cordata ca 10 cm longa supra viride vel variegata prope margine sparse ciliolata subtus pallidiora glabra.

Hab. Sichuan Sheng: monte Omei, inter Wang-nian-si (万年寺) et Jieng-shui (淨水), alt. 1200 m, H. Hara, Jun. 4, 1980 (TI) et cultur in Tokyo, H. Hara, Mar. 17, 1982—Typus (TI); Long-men-dong (龍門洞) alt. 1100-1200 m,

* 財団法人 進化生物学研究所。Research Institute of Evolutionary Biology, Setagaya, Tokyo.

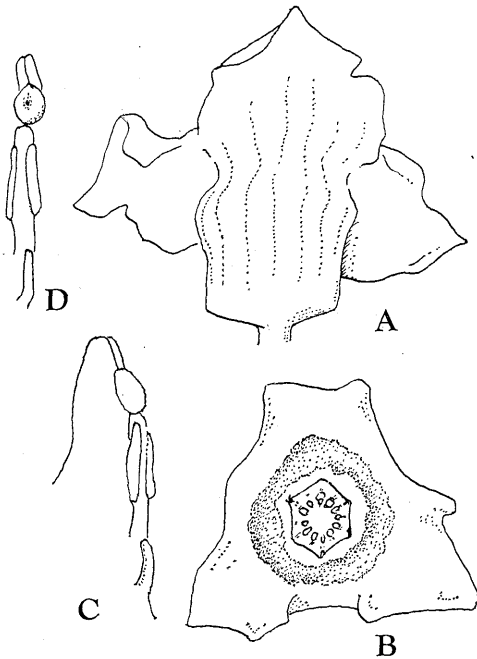


Fig. 1. Flowers of *H. splendens*. A. Lateral view. B. Front view. C. Style, stamen and rudimental petal. D. Front view of the same.

H. Hara, Jun. 3, 1980 (TI).

本種は *Heterotropa maxima* (Hemsley) F. Maekawa¹⁾ と *H. magnifica* (Tsiang) F. Maekawa²⁾ に近い。どちらも湖北省や湖南省に分布するものであるが、前者は大きな花の中央部に広く spongy cushion を持つが、それが大きくがく片毎に長く伸びて、三浅裂していて著しい。またがく筒内面には縦の方向の脈は目立つが、横すじの脈は目立たない。中央部にある雄雌蕊群は日本産のカントウカンアオイ節 (sect. Kanaoi) に似ているが、雌蕊の先端の附属物は左右の両片に分れ、しかも両方にひろがっている点でも異なっている。後者は湖北・湖南両省に産し、記載ではよく似ているが、図をみると、がく筒が細長く伸びているし、葉の心脚

部は大変に浅い。これらの諸点からこれは別種であると判断した。しかし spongy cushion が特に発達している点から、これはカンアオイ属としては特異の方向へ展開したのものとして一新節を立てるに値すると考えるので Sect. *Circinaria* F. Maekawa³⁾ を設ける。

- 1) ***Heterotropa maxima*** (Hemsley) F. Maekawa, comb. nov.
Asarum maximum Hemsley in Gardn. Chlonicle 1 (1890): 422 (1890).
Curtis's Bot. Magazine t. 7456 (1896).
Hupeh: Ichang.
- 2) ***Heterotropa magnifica*** (Tsiang) F. Maekawa, comb. nov.
Asarum magnificum Tsiang in Flora Hupehensis 1: 208, f. 278 (1976).
Hupeh et Hunan.
- 3) ***Heterotropa* sect. *Circinaria*** F. Maekawa, sect. nov.
Flores in medio distincte pluvine spongiosa cincti. Tubus calycis intus leviter reticulatus vel longitudine lamellatus.
Typus sectionis. *Heterotropa splendens* F. Maekawa

本種は四川省の西部に、*H. maxima* は湖北省の西部に、*H. magnifica* は湖北省南部と湖南省とに分布しており、日本に分布するものとの関連性が考えられるところである。なお本種では退化花卉が3本、雌雄蕊群の周囲にあって曾っての時代に大きな花卉を用意したであろうことを物語っている。他の2種ではその報告がないが、或は存在するのを見落としたかも知れない、これは今後の研究に俟ちたい。

Explanation of plate XIV

Heterotropa splendens F. Maekawa

- A. Flower mass (photo by H. Hara).
- B. A flower (photo by H. Hara).
- C. The same (photo by F. Maekawa).
- D. The plants growing wild on Mt. Omei (photo by H. Hara).

□佐鳥英雄・須藤志成幸・津久井芳雄：桐生市植物誌 257 pp. 1981. 桐生市教育委員会桐生市は瀬良瀬川の沖積層から足尾山地の山岳 1,100 m の山地に亘っていて、群馬県の東隅に位置し、フロラ的にみると関東地域に属するが隣接したフォッサマグナ地域と日本海地域とからの要素もまじった極めて興味のある地域である。本書はその所産の1,300種を網羅したものであるが、著者3人とも本職は別で熱意と興味からもり上がったものであることに敬意を表したい。それは本論の植物目録の前に150ページを越える分布と群落の所論が添えられていることでも分るし、範囲内にはカッコソウの群落があることでも有名である。終りにつけられた研究ノートも貴重な体験を述べている。読んでみて、色々考えさせられたことも事実であるが、ソハヤキ要素の52種については再考したいと思う。なお本書は桐生市織姫町 1-1, 桐生市役所内教育委員会社会教育課で発売している。

(前川文夫)

□遠山 益 (訳)：入門応用植物解剖学 210 pp. 1981. 出立出版, 東京, ¥2,500. 本書はD.F. Cutler: Applied plant anatomy (1978) を訳したものである。解剖学はとかくおもしろくない分野と思われ勝ちである。本書でははじめに実験の方法を述べ次に学術用語を適切に解説して、それから葉、茎及び根の組織学、分裂組織、二次系、適応した特徴、花と果実と進んで経済面への応用で終わっている。処々に走査顕微鏡の分解図が挙げられているのも良い。葉や茎の主な特徴がみられる例や世界の各地で普通にみられる植物の主な特徴などが挙げてあるのもよい思いつきと思う。

(前川文夫)



F. MAEKAWA: A new *Heterotropa*